



ことぶき大学が目指すものは・・・



【富良野】60歳以上の市民が通う「富良野市ことぶき大学」（学長・近内栄一教育長）の新年お楽しみ会が15日、市複合庁舎で開かれた。富良野校、山部校の学生ら約60

学びの成果 輝く一年に

富良野 ことぶき大学でお楽しみ会



ニンジンジュースで乾杯することぶき大学の学生ら

人が参加し、ビンゴゲームなどを楽しんだ。学生自治会が主催。来賓の北猛俊市長が「健康のためにもきずなを強め、対話を重ね、笑顔でいることが大事」とあいさつした。全員で元気よく「一月一日」を歌い、近内学長の音頭で、ニンジンジュースで乾杯した。昨年開いた研究・実践発表交流会の様子を収めた映像を視聴した後、ビンゴゲームを行い、和やかに冬の1日を過ごした。（立木大造）

新年の集い・新春お楽しみ会が1月15日（水）に開催されました。新年の集いでは、近内学長より新年の講話をいただき、その後、学生自治会主催による北市長を囲んでの新年お楽しみ会が開催されました。恒例になった富良野人参ジュースで元気良く乾杯！令和6年度の学習活動の集大成である「研究・実践発表交流会」のVTRを試聴し、ビンゴゲームを楽しみました。

翌々日の17日の道新に皆さんの笑顔も掲載されました。

さて、1月もまもなく終わり、令和7年度新入学生募集が始まります。2月17日（月）発行の「広報ふらのお知らせ版」にて入学案内を掲載する予定ですし、また、市内を回り募集案内のチラシ配布をする予定です。皆さんにも配りますので、お隣さんからお知り合いの方には是非声をかけ、ことぶき大学の仲間を増やそうではありませんか。

進級・進学調査

また、本日、別紙にて「進学調査」および「クラブ学習」と「同好会活動の希望調査」を実施します。提出は、2月26日（水）を最終締め切り日とします。

もしかして、進学等思案中であれば気軽に声をかけてください。

新聞紙上に4月8日（火曜日）札幌市教育文化会館にて「野村万作舞台生活90周年記念 狂言師 野村万作・萬斎の世界 万作・萬斎・祐基 狂言三代、燦々と」狂言公演があります。みんなで行こうと思いましたが、新年度に入っていないので、この公演は個人的にお薦めです。

新年度はみなさんと一緒に古典芸能、クラシック、ミュージカル、演劇、芸術鑑賞など行事として計画したいと考えています。

また、先日、旭川市立大学地域連携研究センターの金村主任が来訪され「一日体験入学」のお誘いもありました。「構内を見学、学食を食べて、講座を受講」の案内です。



日程の調整に入りたいと思っています。帰りにはちょっとお茶でも飲んで、散策も出来るのではないのでしょうか。

楽しい研修旅行となるように、計画を立て皆さんに提案したいと思います。

ことぶき大学が目指すもの

ここで、ことぶき大学が目指すものについて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

（年間授業日数）

ことぶき大学の年間授業日数は、令和6年度で33日です。自主的活動である同好会活動や自治会役員会などの日数は入っていません。月平均約3日間です。

学則では、本科1年生から研究生までの7年間には出席日数に縛りがあり、出席率5割以上が進級条件です。

勿論、コロナやインフルエンザなどの感染症、また忌引きなどについては出席日数から除外されます。

令和6年度の出席日数は、出席率5割であれば17日で進級可能です。

（研究生の単年度登録制）…第2研究生（略称）

令和元年度から「研究生の単年度登録制」が新設されました。現在、第2研究生

と呼んでいますが、第2研究生1の正式名は、「令和6年度登録制研究生」です。

今年度研究科を修了された学年で池田さんと伊藤さんです。現在、第2研究生1から6までありますから、第2研究生6の今さん、高田さん、西田さん、芳賀さん4名が初代の単年度登録制研究生となります。

この単年度登録制の新設についてですが、平成30年度に学則が一部変更され、次のような内容になっています。

(学則：「単年度登録制研究生」の新設 平成30年3月18日)

- 1 教科・教養学習、クラブ学習、同好会活動、各種行事、自治会活動についてはこれまで通り参加できる。ただし、学年別研究は任意とする。(本人の希望に応じて参加できる。)
- 2 可能な範囲で、各クラブ学習や同好会活動の講師的存在となり活動していただく。
- 3 上記以外に、ことぶき大学の特色ある活動に結び付くような学習や活動があれば、事務局と相談しながらその講師的存在となっていただく。
- 4 事務局としての押さえとして、今後必要に応じて追記していく。

つまり、単年度登録制研究生である第2研究生は、自由に学習が選択できるということです。単年度登録制の特権ともいえるかもしれません…

令和7年度新入学生案内

令和7年度の入学案内が2月17日発行の「広報ふらのお知らせ版」の表紙に掲載されます。その文面です。

～ 今こそ、学び直しのチャンス！！～

仕事や家事に追われる日々の中で、自分自身のための時間を持つことはとても難しいかも知れません。しかし、人生の新たなステージに進むためには、自分を大切にすることが必要です。ことぶき大学では、「より魅力的に生きる」を合言葉に、仲間との学び合いを通じて、新たな人生の発見と出会いを育むことができます。少しでも、自分のための時間を作り、心豊かな毎日を始めましょう。

究極の遊び ～自己実現

学校では教える側と教えられる側がいて、教師が課題を提示し、児童生徒がその解決に取り組むスタイル。しかし、「学び」とは本来「学びたい」という内なる欲求にあると私は思っています。課題は自らが決定するものです。

よって、教師の使命は、「子どもの心に火をつける」こと、「そうだこれをやってみよう」という内なる学びへのきっかけづくりだと思います。しかし、学ぶべき課題が多すぎて、不完全燃焼で終わってしまっている。

～今こそ、学び直しのチャンス！！～ことぶき大学には、学びを自ら選択することができます。今までできなかった「何か」を学ぶきっかけにしてほしいのです。

ことぶき大学は義務教育ではありません。そこで、

<無いもの> 入学試験、体力適正検査、定期テスト、通知表、家庭訪問、給食肩書、学歴…

<あるもの> 仲間、やる気、熱意、笑顔、プロの講師の方々、ロゴ入りトレーナー（検討中）、ちょっと楽しい朝礼と校歌、専任講師

学びは常に変化するものです。時代とともに課題も多様化しますから、人生100年時代は、常に新しい出会いが待っています。少しずつ老化する自分との出会い…

ことぶき大学の目指すものは、自己実現であり、究極の遊びではないでしょうか。

富良野の子ども達が健やかに生きていくために、私たち高齢者ひとり一人があらためて学び直し、より良い“またづくり”に貢献していく使命もあるのです。

70歳を過ぎてつくづく思う私です。

若い時のようにどこへでもどンドン出かける年ごろではなくなっているのではないのでしょうか。でも！ことぶき大学ならではの特別メニューで行きましょう。

ことぶき大学は皆さんをお待ちしています。

本日、29日(水)の日程

9時30分 朝の集い

9時50分 クラブ学習準備

10時00分 クラブ学習

卒業作品づくりとなります。

12時00分 昼食・休憩

13時00分 俳句講座

兼題「初夢」です。

新春の一句を始めましょう！

15時00分 後片付け

卒業式に向けて

～出席日数を確認してください～

卒業式に向けて準備を進めています。

◎出席人数の確認を各学年でお願いします。

学年委員を中心に出席日数を確認してください。皆勤賞（無欠席）精勤賞（欠席3日以内）となりますが、忌引きやコロナ感染等に係る出席停止もあります。

出席日数に心配な方は、残りすべて出席してください。

次回、2月5日(水)

AM：旭川市立大学出張講座 II

PM：健康講座 II

9時30分 朝の集い

10時00分

講師：旭川市立大学准教授

木下 一雄 様

「先が見えない不安な未来への心の処方箋」

コロナ禍の影響により、失業や経済的困窮をしている人々が急増しました。それに伴い児童虐待も過去に類を見ないほどに急増してきております。

精神科病院で家族支援を担当してきた経験をもとに、公認心理師と精神保健福祉士の実践を活かし、先が見えない不安な時代における心の保ち方について一緒に考えていきましょう。

12時00分 昼食 休憩

13時00分 健康講座

講師：富良野市社会福祉協議会

梶竹 文浩 様

「ウィルス感染症の現状と対応」

コロナ、インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎など全国的にも富良野市の感染者数が多いように感じます。

現状を把握し、認識を新たにしましょう。

日時：2月12日(水) 10時00分～

会場：富良野市文化会館サンエーホール

芸能発表 第一部

ことぶき大学スコップ三味線同好会が
出場しますので、是非、足を運んでください。

新年度のクラブ学習 同好会活動について

新年度に向け現在、年間学習スケジュールを立案しています。その中で、次回2月5日(水)に来年度のクラブ学習や同好会活動の希望調査を実施します。その結果で判断することになりますが、来年度は5年に一度の国勢調査の年です。そのためクラブ学習の教室が変更になります。詳細は口頭でお話しします。

～吾が思い出の記～

一年間の文集でもある「吾が思い出の記」の作成に係わり原稿用紙をお一人2枚配布します。

勿論、原稿用紙でなくても結構です。

また、過去の冊子は事務室にありますので参考にしてください。

寄稿文

ことぶき大学 大学院2年

大島昭代

12月の暮れになると白い犬を連れた一人のホームレスの女性を思い出します。

12月の末から正月にかけて京都の町屋風の宿屋に泊り夫と過ごしたものでした。

夕方、京都の街を散歩していると台車を引いて白い犬を連れたホームレスの女性を見かけました。その女性は50歳くらいでしょうか。彫の深い美しい人でした。(身なりや顔をか

まっていたらですが。) 犬は毛艶が良く綺麗な日本犬でした。

東本願寺の前の大通りを渡った歩道をノロノロではありますが、楽しそうに歩いているのです。そしてうす暗くなると木の下にシートを敷いて毛布に包まり座ります。白い犬は彼女を温めるように傍らにチョココンと座り見守っているのです。

北海道程ではありませんが、京都は底冷えのする様な寒さです。夜中は如何にしているのかなあと心配でした。宿に戻りご主人に伝えると「ああ、あのお乞食さんですか？奥さん、あのお方はねえ、大店のお嬢さんなのですよ。元旦なんか我々じゃあとても手の出ない程のご馳走を使用人が運んで来るのですよ。」

あの寒空で犬と食事をするのでしょうか？テントでも張るのでしょうか？宿のご主人はどこでその光景をみていたのでしょうか？不思議に思うことが沢山ありました。

大切なお嬢さんを思う気持ちと世間体があるので彼女をお宅に連れ帰ると、犬と一緒に外に出て行って元の乞食生活に戻ってしまうのだそうです。放浪癖のある人なののでしょうか？破滅的な性格なののでしょうか？大店のお嬢さんが何でえと不思議でした。

もう 30 年以上も前のことなので記憶は確かではありませんが、お乞食さんと白い犬の事は今でも鮮明に覚えています。お伽噺の様なあのシーンが暮れになると頭に浮かびます。



お薦めの1冊・ティータイム

大島さん、寄稿文ありがとうございました。このイラストは、チャット GTP で作成しましたが、いかがですか。小説の出だしのような寄稿文ですね。この続きは麓郷から創作してみたいかがですか。

自宅の書斎の机には『砧（きぬた）をうつ女』著者、李恢成（イ・フェソン）日本語読みでり・カイセイ、1971年に芥川賞を受賞した単行本があります。この1月5日、肺炎のため東京都内の病院で死去されました。89歳でした。

“砧”という響きに惹かれた妻の要望で取り寄せました。妻は、面白いところがあると写メールで仕事にも関わらず送ってくるのです。小さい頃の李さんの目に映る父親が凄いです！ただし、面白可笑しい軽い話では決してありません。